

付録（単元構造図）

本付録では、民間と連携した水泳授業を実施する際の単元計画例を、単元構造図を用いて示しています。本文では、アンケート、インタビュー、授業視察の結果から、水泳授業における教育的価値、教員の関わり方、学習評価の在り方などについて整理し、今後の民間と連携した水泳授業への示唆を提言しました。本付録は、それらの成果を踏まえ、学校として水泳授業をどのように設計・運営するか、学校として何を整える必要があるかを具体的に示すことを目的としています。

なお、本付録に示す単元計画例(単元構造図)は、各自治体や各学校の実態に応じて柔軟に再構成されることを前提としています。児童生徒の実態、施設条件、教員体制、連携形態に応じて調整しながら、学校体育としての水泳授業の質保証を図るための参考資料として活用されることを期待します。

単元計画例(単元構造図)の見方

【1】「単元を貫く問い」や「単元テーマ」について

この単元で教師が児童生徒に何を身に付けさせたいのか、どのような姿を目指すのか等を示しています。

【2】単元目標について

学習指導要領の項目に合わせて(知識及び技能)、(思考力、判断力、表現力等)、(学びに向かう力・人間性等)で示しています。

【3】評価規準について

単元目標の実現状況を把握するための規準(おおむね満足できる状況)を設定しています。

【4】学習の流れについて



単元計画の実現を目指して、実際の授業で誰が(教師・インストラクター)、何を教えるのか(指導内容)、どのような活動を行うのかを明確にし、縦と横の時系列(分・単位時間)で配列しています。なお、ここにはプールまでの移動時間は含んでいません。また、時数において()で示しているのはプールでの活動時間とします。そのため、実際には適宜休憩を入れるようにして下さい。

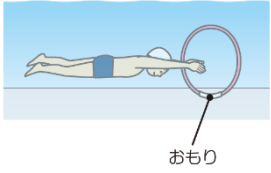
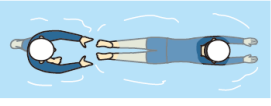

【5】評価機会について

評価を実施する主体は教員です。評価規準の内容に沿って形成的な評価を行うために、いつ(何時間目)、何について(観点別)評価を行うか明確にします。

※学習の流れに記載している「イ」はインストラクター、「教」は教員のことです。技術指導を担う指導者を示している。例えば、「イ1」はインストラクターが1名で「イ1・教1」はインストラクター1名と教員1名の2名でグループを指導するということです。

小学校中学年(第3学年及び第4学年) 単元名【水泳運動】

「単元を貫く問い」や「単元のテーマ」			
水に浮いて進んだり呼吸したり、様々な方法で水にもぐったり浮いたりする楽しさや喜びに触れることができるようにする。			
単 元 目 標	(知識及び技能) 浮いて進む運動、もぐる・浮く運動の楽しさや喜びに触れ、行い方を知るとともに、け伸びをすること、息を止めたり吐いたりしながらいろいろなもぐり方や浮き方をすることができるようにする。		
	(思考力、判断力、表現力等) 自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。		
	(学びに向かう力、人間性等) 運動に積極的に取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。		
	時数	1 (教室)	2・3 (プール)
学 習 の 流 れ	5 (10)	オリエンテーション 1 学習の見通し ○単元の目標 ○移動方法 ○準備物	1 準備運動 ○様々な部位の伸張、回旋等 2 水慣れ ○水中じゃんけん ○水中伝言ゲーム
	10 (20)	2 約束の確認 ○着替え、トイレ ○プールサイド ○安全の心得	
	15 (30)	3 運動の紹介 ○浮いて進む運動 ○もぐる・浮く運動	3 コース別に分かれた運動 【ぐんぐんグループ】「イ1・教1」 動物鬼ごっこ→ポビング →伏し浮き→け伸び競争等 【どんどんグループ】「イ1」 ポビングリレー→け伸び競争 →呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ等 【すいすいグループ】「イ1」 け伸びリレー→、呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ→補助具を使った泳ぎ等
	20 (40)		
	25 (50)		
	30 (60)		4 振り返り ○できるようになったこと、がんばったことを発表し、評価する 5 整理運動 ○様々な部位の伸張、回旋等
	35 (70)		
	40 (80)		
	45 (90)	4 めあての決定 ○自分の目標を設定	
評 価 機 会	知識		①②
	技能		
	思・判・表		
	態度		①

評価 規 準	知識	①浮いて進む運動の行い方について、言ったり書いたりしている。(行い方) ②もぐる・浮く運動の行い方について、言ったり書いたりしている。(行い方)	
	技能	①補助具を用いて浮き、呼吸をしながら手や足を動かして進む初歩的な泳ぎをすることができる。(初歩的な泳ぎ) ②プールの底から足を離して、体の一部分をプールの底につけるようにもぐるることができる。(もぐる) ③大きく息を吸い込み全身の力を抜いて、背浮きやだるま浮きなどのいろいろな浮き方をすることができる。(浮く)	
	思・判・表	①自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。(課題解決)	
	態度	①水泳運動の心得を守って安全に気を付けている。(健康・安全) ②水泳運動に進んで取り組もうとしている。(愛好的態度)	
4・5 (プール)		6・7 (プール)	8 (教室)
1 準備運動 ○様々な部位の伸張・回旋等 2 水慣れ ○水中じゃんけん・変身浮き 3 グループ (課題) に分かれた運動			リフレクション 1 分かったこと ○体の力を抜くと長く浮くことができる。 ○体を1本の棒と考え、ピンと伸ばすと伸びがよく進む。 2 できたこと ○ビート板を使って、クロールの手の動きを練習することができた。 ○息継ぎをするときの呼吸のポイントが分かった。 3 今後に向けて ○めあての~~は達成できた。来年は、クロールで長く泳ぎたい。
【ぐんぐんグループ】 「イ1・教1」 ○集団浮き ○フラフープくぐり  おもり ○浮いた状態で自分なりの手足の動きをつけて進む ○バタ足相撲 ○かえる足相撲 ○呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ	【どんどんグループ】 「イ1」 ○け伸び競争 ○パディに足を押しもらいながらけ伸び  ○補助具を使ったクロール系の泳ぎ ○補助具を使った平泳ぎ系の泳ぎ ※自分の課題に合った場で練習する	【すいすいグループ】 「イ1」 ○け伸び鬼ごっこ ○背浮き (補助具) ○補助具を使ったクロール系の泳ぎ ○補助具を使った平泳ぎ系の泳ぎ ○面被りクロール ○面被り平泳ぎ ○呼吸を伴う初歩的な泳ぎ ・ばた足泳ぎ ・かえる足泳ぎ 	
4 振り返り ○できるようになったこと、がんばったことを発表し、評価する 5 整理運動 ○様々な部位の伸張、回旋等			
			①②
②③		①	
		①	①
①			②